



いわき市

教育旅行 ガイドブック



いわきってこんなところ

Iwaki is such a place

面積・人口

- 人口 (Population) : 318,261人 (令和6年8月1日現在)
- 世帯 (Households) : 141,631世帯 (令和6年8月1日現在)
- 面積 (Area) : 1,232.51km² (令和6年4月1日現在)
- 位置 (Location)
北緯 (Northern Latitude) 37° 03' 02"
東経 (Eastern Longitude) 140° 53' 16"
(令和2年4月1日現在)

市の地勢・気候

いわき市は、福島県の東南端に位置し、南端は茨城県に接しています。

東は太平洋に面しているため、寒暖の差が比較的少なく、気候に恵まれた地域です。

地形は、西方の阿武隈山地 (標高500m~700m) から東方へゆるやかに低くなり、平坦地を形成しており、夏井川や鮫川を中心とした河川が市内を流れ、太平洋に注いでいます。

また、日照時間が長く、冬季でも安定した気候が続くため、スポーツが盛んな地域です。

いわき市誕生の歴史

いわき市を含む地域は、有史の時代に入ると中央政権の国造が置かれ、11世紀の中頃から岩城氏が統治することとなり、現在のいわき市への基礎作りをしました。

江戸時代に入ると、磐城平藩を中心に、湯長谷藩、泉藩、幕領として、この地は治められ、明治維新に至ります。

現在のいわき市の地域は、明治22年の町村制を経て昭和28年に、5市4町5村で形成されていましたが、昭和41年に14市町村が合併し、現在のいわき市が誕生しました。

※いわき市から各地への距離は目安としてお使いください

目次

いわきってこんなところ	1
ガイドブック掲載施設マップ	2
いわきで学ぶ(学習テーマのご提案)	3
震災学習	4・5・6
常磐炭田の歴史	7・8
いわき自慢の体験・学習	9・10・11・12
補助金等交付制度	13・14
スポーツ・文化施設一覧	15・16
宿泊施設のご案内	17・18
いわきへのアクセス	19

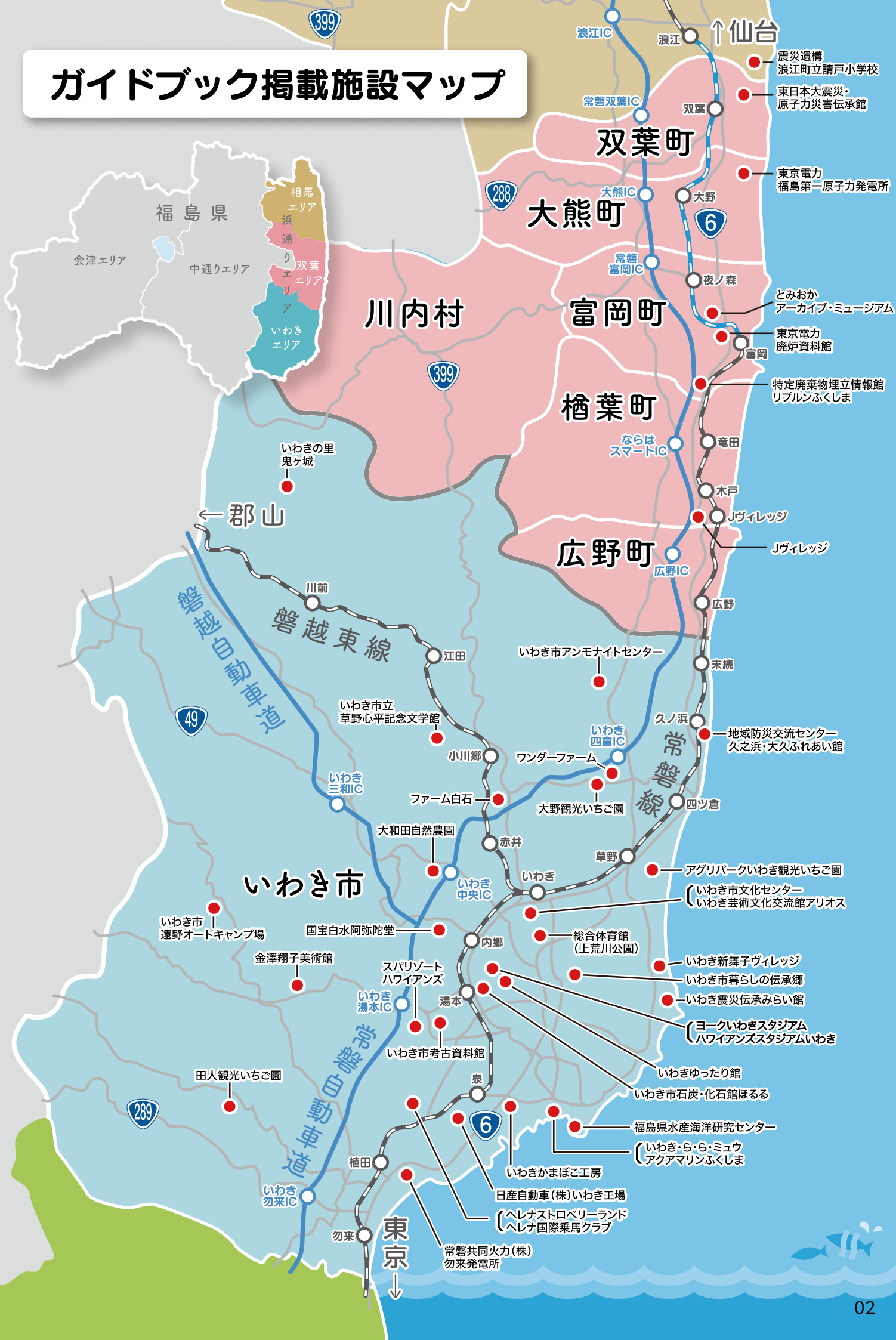
【必ずお読みください。】

- 本ガイドブックの内容は、令和6年10月現在の情報です。掲載内容が予告なく変更になることや、時期による変動及び臨時休業等で利用できない場合がございます。ご利用の際は、あらかじめ施設等へお問い合わせください。

新型コロナウイルス感染予防対策について

- 訪れる皆さまには、体温の測定、マスクの着用、手洗いの励行、ソーシャルディスタンスの確保など、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の実践をお願いいたします。

ガイドブック掲載施設マップ



いわきで学ぶ（学習テーマのご提案）

いわき市は学びと体験の宝庫。全国から教育旅行や視察で多くの方がお見えになります。

いわき市ならではの「特徴的な学習テーマ」を紹介します。

学習テーマ1

震災学習

（震災の記憶と復興・防災）



2011年3月に三陸沖を震源として発生した東日本大震災。

いわき市も地震や津波で多くの人命と財産が奪われました。

実際に震災を体験した震災語り部が、当時の状況や行動、思いなどを通して、皆様に貴重な経験や教訓を伝える講話を行っています。

また、市内の震災関連施設や展示、防災施設等をご覧頂くことで、震災から復興までの歩み、災害への備えなどを学べます。

学習テーマ2

常磐炭田の歴史



明治から昭和半ばにかけて、日本の産業発展を支えた石炭産業。当時、いわき市には国内有数の産出量を誇る「常磐炭田」がありました。エネルギーが石炭から石油へと移り変わるなか、いわき市の主要な産業も石炭関連産業から工業や観光業へとダイナミックに転換していきます。

「いわき市石炭・化石館ほるる」や常磐炭田産業遺産を巡って、いわき市と炭鉱の歴史について学びます。





いわき市は、東日本大震災により、地震（最大震度6弱）と津波（最大津波高8.57m）に襲われ、沿岸部をはじめ、市内全域に甚大な被害が生じました。

また、震災を起因とした東京電力福島第一原子力発電所事故による影響や、風評被害も深刻です。

しかし、国内外からの温かいご支援により、私たちは着実に復興に向けて歩みを進めております。震災から得た教訓を広く皆様に伝えることで、減災、防災にお役に立ちたいと考えております。

モデルコース①

震災といわき

いわき震災伝承みらい館 (所要時間60分)



- ・地震・津波・原子力災害のパネル展示や実際の津波の映像展示
- ・フイズ形式のタッチパネル展示
- ・被災した中学校のピアノや余震によって生じた断層の標本などの実物展示

移動時間約10分

津波被災地(薄磯・豊間地区)視察 (所要時間60分)



- ・震災後に嵩上げされた巨大な防潮堤や防災緑地、防災機能を有する公園などを視察
- ・震災語り部によるガイドツアー形式の講話

移動時間約20分

いわき・ら・ミュウ(3.11いわきの東日本大震災展) (所要時間60分)〈お食事可能〉



- ・震災の被害状況や実際の避難所の様子がわかる展示
- ・震災当時の様子を収めたDVDの視聴や施設復旧の取組の説明

※所要時間と移動時間は目安です。また、移動時間は車やバスを想定しております。



モデルコース②

津波と原発事故

地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館 (所要時間30分)



- ・津波避難ビルの機能を持つ施設の視察
- ・震災時の写真やパネル展示を震災語り部が説明

移動時間約5分

津波被災地(久之浜地区)視察 (所要時間30分)



- ・震災後に嵩上げされた巨大な防潮堤や防災緑地、被災後に操業を再開した久之浜漁港、津波倒壊を免れた久之浜稻荷神社(秋葉神社)などの視察
- ・震災語り部によるガイドツアー形式の講話

移動時間約20分

Jヴィレッジ

(所要時間60分)〈お食事可能〉



- ・震災直後、原発事故収束に向けた前線基地となった時の様子の説明
- ・ナショナルトレーニングセンターとして再開した施設の視察

移動時間約30分

東日本大震災・原子力災害伝承館 (所要時間60分)



- ・地震、津波災害から原子力発電所事故に至る流れや、復興への取組について、映像・パネル・実物展示で解説

いわき市の被害状況(R6.2.28時点)

Ⅰ 人的被害 死者468名

直接死293名、関連死138名、
死亡認定を受けた行方不明者数37名

Ⅱ 建物被害

(住 家) 全壊 4,644棟、大規模半壊 6,469棟、
半壊 26,452棟、一部損壊 26,004棟
(非住家) 全壊 3,258棟、大規模半壊 2,784棟、
半壊 6,694棟、一部損壊 14,875棟
(合 計) 全壊 7,902棟、大規模半壊 9,253棟、
半壊 33,146棟、一部損壊 40,879棟

いわき市の津波の波高

① 久之浜町田之網	7.45m	⑦ 永崎	5.38m
② 四倉町(海側)	7.55m	⑧ 小名浜下神白	6.81m
③ 平沼ノ内	4.92m	⑨ 岩間町	7.66m
④ 平薄磯	8.51m	⑩ 錦町須賀	6.7m
⑤ 平豊間	8.57m	⑪ 小浜町	7.1m
⑥ 江名字江ノ浦	6.81m		

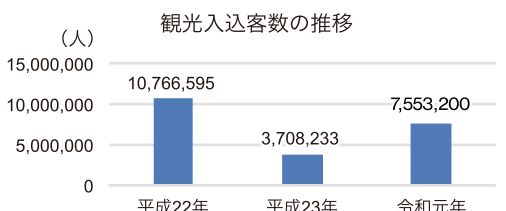
※浸水高は、TP(東京湾平均海面)からの高さ
※()内は、海岸から測定地点までの距離

「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」による速報値

いわきの観光に与えた影響

東日本大震災の発生した平成23年、いわき市は観光面においても大打撃を受けました。市内全ての海水浴場が開設を中止したことや、一部の観光施設が長期の休業を余儀なくされたこと等により、この年の観光入込客数は、前年に比べ約706万人減少しました。

依然として観光入込客数は震災前の7~8割程度に留まっており、震災以前の活気を取り戻すことが課題となっています。



いわき震災伝承みらい館

「いわき震災伝承みらい館」は、地震、津波に加え、原発事故が重なるという未曾有の複合災害に見舞われた、いわき市の震災経験をあらためて捉えなおし、震災の記憶や教訓を風化させず確実に後世へと伝えていくことを目的とした施設です。



展示室(パネル展示)



展示室(奇跡のピアノ)



展示室(断層剥ぎ取り標本)



【展示室】

パネル展示や映像展示、現物展示などで、被害状況や復興への歩みについて学ぶことができます。

【多目的学習室】

震災の教訓について市民が語る証言映像をご覧いただけます。

多目的学習室



震災の記憶と教訓から学ぶ「防災・減災」～みらい館の取組み～

みらい館では、ご来館される皆様へ、震災の記憶と教訓を学んで頂くため様々な取組みを行っております。

【館内学習シートの提供】(無料)

震災や防災の基本的な事項について効率的に学ぶため、館内展示から答えを探す「クイズ形式の学習シート」を提供します。

(年齢別:小学生低学年、小学生高学年、中学生、高校生・一般)



【館内定期講話】(先着順、無料)

館内多目的学習室で、土日祝日に語り部による震災講話が無料で聞ける「定期講話」を開催しております。詳しくは当館公式HPでご確認ください。

【震災語り部の派遣】(要予約、有料)※施設見学と組み合わせて実施可能

防災・減災教育や視察、研修、防災関連事業等に震災語り部の講話を希望する団体、個人に語り部の手配(コーディネート)を行います。

【震災アーカイブの公開】(無料、ダウンロードして利用する場合は要申請)

学校の事前学習や学術研究等に御利用いただける震災アーカイブ(写真や記録)をWeb上で公開しております。

【震災学習や防災・減災教育に関するご案内・情報提供】(無料)

旅行事業者(エージェント)、教育機関、企業の研修担当者の皆様から、旅行行程や来館時の学習内容等に関するご相談をお受けします。



施設が立地する薄磯・豊間地区には、海拔約10mの防災緑地が整備されました。防災緑地の遊歩道からは、美しい海岸線と太平洋、地域のランドマークである白亜の塩屋埼灯台が望めます。



令和2年5月の施設オープン以降、防災・減災教育や視察研修を目的として、市内外から多数の教育関係機関、企業、団体等にご利用いただいております。

施設利用者の声

実際に震災の被害にあわれた方からお話を聞く機会はあまりないので、貴重な経験になった。私は震災によって被害を受けることはなかったものの、津波の映像などにはやはり恐怖を覚えた。私は福島のお食べ物も、観光地も、そして人も、本当に大好きです。これからも応援しています。(山梨県 10代 女性 高校生)



遠い地域での悲しい出来事でしかなかったが、ここに訪れて様々な事が身近に感じられ考えさせられた。地元の人が明るく生きている姿に胸打たれました。(東京都 40代 男性 会社員)



震災語り部(いわき語り部の会)

地震や津波による被害をはじめ、原発事故による風評被害など、私たちには忘れてはならない記憶と、大切な想いがあります。

全国各地から訪れる「被災地で学びたい」「被災地を応援したい」という方々のために、未曾有の災害を実際に体験した震災語り部が、自身の体験や教訓、復興の状況、災害への備え等についての講話を行っております。

会員数:16名 ※語り部は担当地域があり体験談や講話内容はそれぞれ異なります。



震災語り部からのメッセージ

佐藤トミ子さん



東日本大震災を受け、人々は悲惨な経験をしました。しかし、多くの方々の温かい支援により、力強く前進することもできました。これらの活動を学ぶことにより、今後起きるであろう災害に、自分たちはどのように活動していけば良いかを考える参考にしたいと思っています。

小野陽洋さん



私は東日本大震災の当日、海岸の目の前に建つ自室から逃げずにいて、2階で津波に飲まれました。日常に、もしも今いる場所で災害が起きたらどう行動するか、考える時間を持てほしい。大切な命、「逃げて助かろう!」

いわき市薄磯3-11 TEL:0246-38-4894 駐車場:普通32 大型2 入館料:無料

休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)、年末年始 ※10名以上の団体のご利用は14日以上前に要予約

地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館

災害時の拠点施設として、平成28年3月に供用開始。
2階の「防災まちづくり資料室」には震災時の写真や津波被害の状況を説明する展示コーナーが設置されています。



いわき市久之浜町久之浜字中町32 TEL:0246-82-2111
駐車場：要相談 入館料：無料

薄磯・豊間地区 (教訓を活かしたまちづくり)

薄磯・豊間地区は、8mを超える津波により約7割以上の住宅が全壊するなど壊滅的な被害を受けました。現在は防潮堤や防災緑地のほか、高台住宅地や防災機能を持つ公園などが整備され災害に強いまちづくりが進められています。



いわき・ら・ら・ミュウ

市内最大の観光物産センターである本施設は、東日本大震災の津波により、壊滅的な被害を受けました。施設2階の「3.11いわきの東日本大震災展」では、当時の様子を記録したDVDや実際の避難所の様子をご覧頂けます。また、施設内の研修室で施設職員が津波による施設の被害状況や、復旧に向けた取組みについて事前予約にて説明します。



お食事やお土産などのお買い物もお楽しみください。



いわき市小名浜字辰巳町43-1 TEL.0246-92-3701 駐車場：大型可

～いわき市から足を延ばして～

いわき市の北に位置する双葉地区で、東京電力福島第一原子力発電所の事故に関連した内容などを学べます。

東日本大震災・原子力災害伝承館

「東日本大震災・原子力災害伝承館」は、世界初の甚大な複合災害の記録や資料を収集・保存し、研修および研究に活用することにより、その教訓と復興のあゆみを後世に継承する施設です。展示ブースはプロローグシアターと5つのゾーンに分かれ、地震・津波災害から原子力発電所事故に至る流れや事故直後の状況、復興に向けた取組等を、様々な資料から学ぶことができます。



双葉郡双葉町大字中野字高田39
TEL：0240-23-4402 駐車場：普通111 大型10
入場料：大 人 600円／大 人 団体(20名以上) 480円
小中高 300円／小中高 団体(20名以上) 240円

とみおかアーカイブ・ミュージアム

「とみおかアーカイブ・ミュージアム」では津波に巻き込まれたパトカーをはじめとした約430点の資料を展示しており、震災前の住民の生活の様子と比較しながら震災・原子力災害を境に、町にどのような変化が起きたのかを伝えています。



双葉郡富岡町大字本岡字王塚760-1
TEL：0240-25-8644
駐車場：有(大型5) 入場料：無料

震災遺構 浪江町立請戸小学校

東日本大震災及び原発事故により甚大な被害を受けましたが、奇跡的に全員が無事避難することができた学校です。実際に校舎に入って見学することができ、町の概要や学校の避難の様子、被害状況などがパネル・映像等で展示されています。



双葉郡浪江町大字請戸字持平56
TEL：0240-23-7041
駐車場：普通 20 大型 5
入場料：一般 300円(250円)
：高校生 200円(150円)
：小・中 100円(50円)
※()内は団体料金(20名以上)

東京電力廃炉資料館

「東京電力廃炉資料館」では、福島第一原子力発電所で起きた、事故の事実と廃炉作業の現状を映像や模型、パネルを使用して解説しています。
廃炉作業現場で活躍する遠隔ロボットも展示しています。



双葉郡富岡町中央三丁目58
TEL：0120-502-957
駐車場：有(大型可) 入場料：無料

特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま

「リプルンふくしま」では特定廃棄物の埋立処分の内容や、安全を確保するための取組、処分の進捗状況、モニタリング結果などの最新の情報を公開しています。また、処分場の見学も可能です。(要予約)



双葉郡富岡町大字上郡山字太田526-7
TEL.0240-23-7781
駐車場：有(大型可) 入場料：無料

Jヴィレッジ

震災後、Jヴィレッジは原発事故収束基地に姿を変えましたが、その役目を終えた現在、“ゼロから復活する軌跡”からの“まなび”や“きづき”を得られる場として、施設見学・震災学習・企業研修等で使用することができます。
また、ホテル(総客室数200)・レストラン・天然/人工芝ピッチ・全天候型練習場・フィットネスジムなど、トップアスリートも利用する充実の施設をご利用頂けます。



双葉郡楢葉町大字山田岡美シ森8
TEL:0240-26-0111
駐車場：有(大型可)

常磐炭田の歴史

国内屈指の採掘量を誇った 常磐炭田の歴史と衰退、産業転換を学ぶ



常磐炭田は、福島県南部から茨城県北部に広がる炭田で、埋蔵量は約11億トン。いわき市での歴史は古く、幕末の安政3年(1856年)、弥勒沢(みろくざわ)で石炭の露頭が発見されると、その翌年から採掘が始まりました。

その後、明治・大正・昭和と生産規模が拡大され、地域の基幹産業として日本の近代化、戦後の復興を支え、最盛期には年間400万トンの産出を誇り、「本州最大の炭田」となりました。

しかし、昭和30年代以降、石炭から石油へ資源エネルギーの転換が進むにつれて、石炭産業は斜陽化していき閉山が相次ぎます。そこで、炭鉱会社が炭坑夫やその家族の雇用に結び付けようと、温泉を利用したレジャー施設「常磐ハワイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)」を昭和41年(1966年)に開設。これが大成功し、見事に「観光業」への産業転換に成功した先進的な事例となりました。

そのようななか、昭和46年(1971年)には、最大手の常磐炭礦磐城礦業所の閉山により約4,700名が解雇され、昭和51年(1976年)に常磐炭礦西部礦業所が閉山して、いわきの炭鉱の約120年の歴史に終止符が打たれました。

常磐炭田の歴史

<石炭発見>

安政 3年(1856)片寄平蔵が「弥勒沢」にて石炭層を発見、翌年から採掘が始まる

<発展>

明治10年(1877)西南戦争の影響で、九州から本州への石炭が途絶し、常磐炭田が注目される

明治30年(1897)日本鉄道磐城線(現:JR常磐線)の水戸ー平(現:いわき)が開通

昭和16年(1941)太平洋戦争 開戦

昭和19年(1944)入山採炭(株)と磐城炭礦(株)が合併、常磐炭礦(株)設立

昭和20年(1945)太平洋戦争 終戦(敗戦)

<最盛期>

昭和21年(1946)石炭や鉄鋼の生産を重視する傾斜生産方式が開始

昭和26年(1951)この頃常磐炭田で約130の炭鉱が操業

<衰退期>

昭和30年(1955)エネルギー革命の進展に伴い、石炭産業合理化臨時措置法が公布、スクラップ&ビルド政策へ転換

昭和41年(1966)常磐ハワイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)が営業開始
14市町村が合併し、「いわき市」が誕生

昭和46年(1971)常磐炭礦磐城礦業所が閉山、約4,700人が解雇される

<終焉>

昭和51年(1976)常磐炭礦西部礦業所が閉山し、いわき市での採炭が終わる

昭和60年(1985)常磐炭礦中郷坑が閉山し、常磐炭田の採炭の歴史が終わる



(昭和30年代 いわき観光まちづくりビューロー提供)



(昭和30年代 いわき観光まちづくりビューロー提供)

ヘリテージツアーガイドからのメッセージ

いわきの石炭産業は、江戸時代末期から昭和の中頃まで日本の発展に寄与してきました。太平洋戦争の終戦後、壊滅的なダメージを受けた都市の再建に石炭は必須であり、国の基幹産業とされておりましたが、現在は石炭の存在が忘れられつつあります。先人たちが苦勞して作業を行い、国のため、いわきのため、家族のために汗水を流して支えてきた歴史が忘れ去られようとしているのです。

実務に就かれていた方々も大変ご高齢になり、直接話を聞ける機会が少なくなりました。ツアーに参加した方にいわきの歴史を学んでいただき、先人たちからの情報をできるだけ後世に残していきたいと思っています。

モデルコース

炭鉱の歴史と産業転換

※所要時間及び移動時間は目安です(移動は車を想定)

日本の近現代史を支えた常磐炭田の歴史と、石炭から観光への産業転換を学ぶコース

いわき市石炭・化石館ほるる

(所要時間40分)

- 模擬坑道で常磐炭田の歴史を学び、採炭の雰囲気体験



移動時間約20分

ヘリテージ(産業遺産)見学

(所要時間60分~120分)

- 常磐炭礦内郷礦中選炭工場
- 内郷礦住吉一坑坑口、扇風機上屋、水中貯炭場
- みろく沢炭鉱資料館



移動約20分~30分

スパリゾートハワイアンズ

(所要時間60分)〈宿泊〉

- 産業転換と「東北のハワイ」を生み出した発想力についての講話



ヘリテージツーリズムとは

ヘリテージツーリズム(Heritage tourism)とは、文化遺産や自然遺産、産業遺産を観光資源として利用することを指します。いわき市内には、地域の産業を支えた数々の産業遺産が存在します。それら産業遺産を巡る旅行や学習ツアーで多くの方に体験していただくことで、日本の産業発展をエネルギー面で支えた優れた産業技術がいわき市に存在したことを広く後世に伝えることができ、交流人口の拡大に繋げることができます。

常磐炭田の歴史を学ぶコンテンツ

いわき市石炭・化石館ほるる

開館については、下記ホームページをご確認ください。
なお、化石や炭鉱については、出張講座も行いますのでご相談ください。

いわき市石炭・化石館ほるるは、常磐炭田の採炭の歴史と、市内で発掘された化石や地球の歴史を物語る諸外国の化石資料を展示する施設です。楽しく学べる多彩な体験ワークショップも開催しております。



模擬坑道

地下600mにおりる雰囲気
あじわいながら、入坑。

竖坑エレベーターで地下600mまで下り、坑内への入坑を疑似体験。
模擬坑道では、石炭産業が盛んだった時代の雰囲気を感じながら、採掘方法の進歩や、労働者の様子を通して、炭鉱の歴史と採掘の仕組みを知ることができます。



化石展示

いわき市で発見されたクビナガリュウ(フタバサウルス・スズキイ)をはじめ、巨大なマメンチサウルスやトリケラトプスなど、臨場感溢れるダイナミックな展示を是非ご覧ください。



いわきの逸品プラザ

ほるる館内のいわきの逸品プラザではオリジナルグッズや、いわきの名産品を販売しております。



いわき市常磐湯本町向田3-1 TEL:0246-42-3155 駐車場:大型可
入館料:一般 660円(590円)/中・高・大学生 440円(400円)/小学生 330円(300円)
※(団体20名以上) URL :<https://www.sekitankasekikan.or.jp/>

ヘリテージ(産業遺産)見学



迫力のある常磐炭砦・内郷砦・中央選炭場跡を見ながらガイドから炭鉱の歴史を聞くと華やかな時代を思いおこすことができます。歴史、産業遺産に興味のある方には特におすすめです。

所要時間は、参加者の方のご都合に合わせて、巡る箇所数やルートを調整しますので、ご相談ください。

いわきヘリテージ・ツーリズム協議会

いわき市常磐湯本町向田3-1 いわき市石炭・化石館ほるる内
TEL:0246-42-3155

ヘリテージの見学や廃墟立ち入りの注意点等

産業遺産を見学する際は安全に十分注意してお出かけください。法律で禁止された場所や民間施設等への無断での立ち入りは出来ません。必ず「いわきヘリテージ・ツーリズム協議会」へ事前にお問い合わせください。

スパリゾートハワイアンズ

いわき市は、かつて炭鉱の町として賑わいましたが、その後のエネルギー革命や時代の流れとともに石炭の需要は減り、町は元気を失っていった歴史があります。その時に地域を救った切り札が常磐ハワイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)の創設でした。

東日本大震災の際には、復興のシンボル「フラガール」による全国きずなキャラバンを実施し、いわきだけでなく福島全体の復興に大きく貢献しました。



スパリゾートハワイアンズ 学びのプログラム

減災・防災学習



所要時間
60分

近代産業史



所要時間
60分

その時スタッフがとった行動とは 考えることに決まりや制限はなし
東日本大震災や4月11日のいわき直下型地震(震度6)の際にスタッフがとった行動を紹介しながら、防災を学んでいただきます。
石炭から石油という産業革命の中で、観光業という異業種へ転換し、さらに「東北のハワイ」を生み出した発想力を学びます。

※学びのプログラムは宿泊者のみ対象、有料となります。



いわき市常磐藤原町藤平50 TEL:0570-550-550
入館料:中学生以上 3,570円/小学生 2,250円
3歳以上 1,640円/3歳未満児 無料



いわきのお土産から、ハワイアンズ限定のオリジナルグッズ、ハワイ直輸入品まで、楽しみながらお買い物ができます。

いわき自慢の体験・学習～多彩な魅力、体験型施設のご案内～

海を通して『人と地球の未来』を考える

環境水族館 アクアマリンふくしま

福島県の大きな特徴である親潮と黒潮が出会う潮目の海がメインテーマの水族館。

親潮の源流域のオホーツク海、黒潮の源流域、福島県

海山川の生態系などを再現展示しています。釣り体験などの体験プログラムや、屋外にある世界最大級のタッチプール「蛇の目ビーチ」で生き物と触れあう体験など、自然環境を再現し、五感を使って学ぶことができます。



ナメタシゴ



デンアサゴ



ユーラシアカワウソ



ゴマフアザラシ

いわき市小浜浜字辰巳町50 TEL: 0246-73-2525 駐車場: 有(大型可)
入館料: 一般 1,850円 / 小～高校生 900円 / 未就学児無料
(各体験により別途料金がかかります。体験の開催状況についてはHPをご確認ください。)

潮目の大水槽



オセアニック・ギャラリー

●アクアマリンふくしまが取り組んでいる研究や活動を、ブースに分けて分かりやすく紹介しています。



釣り体験



●竿貸し代1,000円/魚1尾200円(調理代込み)

自分で釣った魚をその場で食べることで、命のつながりやありがたさを感じることができるプログラムです。

※教育旅行でご利用の際は事前にご相談ください。



ふくしまの海～大陸棚への道～

●福島県の海は、大陸棚から深海へとつながります。ここでは、大陸棚へスポットをあて、豊かな漁場の多様な生物を展示しています。



蛇の目ビーチ

●磯、干潟、浜という海辺の自然を再現した屋外エリア。裸足になってヒトデやナマコなど海辺の生き物に触れることができます。

県内唯一の国宝建造物

国宝「白水阿弥陀堂」



さわやかな新緑から始まる浄土庭園は、花菖蒲、あざやかな紅葉など四季折々の花が楽しめます。

白水阿弥陀堂は、岩手県の中尊寺金色堂、宮城県の高蔵寺阿弥陀堂とともに東北地方に現存する平安時代の建造物の一つです。福島県内では、唯一の国宝建造物に指定されています。岩城則道公の妻徳姫が夫の供養のために建立したといわれ、美しい曲線を描く宝形造りの屋根と極楽浄土を偲ばせる庭園が、平安時代からの優美な姿を見せてくれます。

御堂内では、白水阿弥陀堂の歴史や国指定重要文化財の如来像などについて住職が解説しています。

いわき市内郷白水町広畑221
TEL: 0246-26-7008
料金: 大人 500円 / 小人 300円
駐車場: 有(大型可)

「カエル」の詩人

いわき市立 草野心平記念文学館



いわき市小川町の雄大な自然に囲まれた山腹に立地しています。アトリウムロビー正面から一望できる阿武隈山系は、心平が16歳まで暮らした故郷の情景です。館内には常設展示室をはじめ、企画展示室、アートパフォーミングスペース、文学プラザ、小講堂等があり、文学を中心とした様々な事業を展開しています。

常設展示室では、草野心平の詩をはじめ、自筆原稿、詩集、書画などを紹介。彼が経営していた居酒屋「火の車」の復元や肉声による詩の朗読などもあり、詩人の魅力を体感できます。さらに、企画展や講演会を開催するほか、文学プラザでは、来館者が自由に詩作できます。

いわき市小川町高萩字下夕道1-39
TEL: 0246-83-0005
料金: 一般 440円 / 高・高専・大生 330円 / 小・中生 160円
駐車場: 障がい者用2、普通42、大型3